

# 吉賀中だより

令和6年11月29日  
吉賀町立吉賀中学校  
(文責：城市)

## 令和6年度 学校教育目標

「**自他を大切に、共に自らの可能性を広げる生徒の育成**」

### めざす生徒像

- 誠実な生徒 **【誠実】**
- 自ら行動できる生徒 **【自主】**
- 新たな表現のできる生徒 **【創造】**
- 学び合い高め合う生徒 **【連帯】**

初冬の季節となりました。11月22日からは二十四節気の小雪(しょうせつ)です。冷え込みが厳しくなり、小雪(こゆき)がちらつき始めるころという意味があり、朝晩の冷え込みにこたつやストーブが恋しくなる今日この頃です。

あた、かき 十一月も すみにけり (中村草田男)

つい先日までは秋らしからぬほど、日中は上着を脱ぎたくなるくらいに暖かい日もありましたが、11月後半になると朝晩の冷え込みもあり短い秋の終わりが近づいてきました。

木の葉ふりやまず いそぐな いそぐなよ (加藤楸邨)

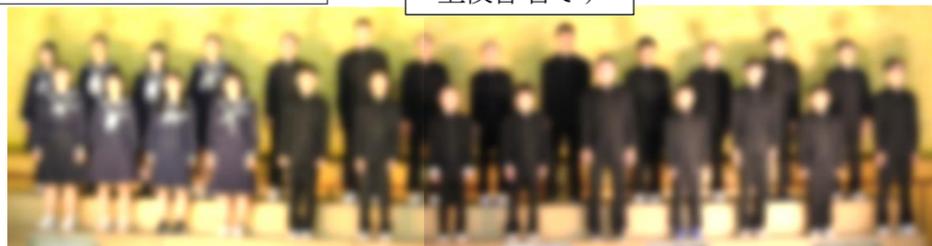
山々では紅葉が見頃になっていましたが、小雪(しょうせつ)になりいつの間にか落ち葉の舞い落ちる冬の近づく気配を感じるようになりました。今年も残りひと月あまり。一年の締めくくりの準備を始めていきましょう。



## 文化祭(11/3)を開催しました

全校合唱です

11月3日(日:文化の日)に、令和6年度文化祭を開催しました。当初の予定は11月2日(土)でしたが、季節外れの台風から変わった温帯低気圧



通過により大雨警報が発令され、臨時休校としたため急遽翌日3日に行うことになりました。この大雨のため避難所が開設されましたが、皆さんのご家庭・地域はいかがであったかと心配しております。

さて、3日は前日の大雨から一転した快晴に恵まれ、文化祭を無事に行うことができました。当日は急な変更にもかかわらず保護者の皆様、地域の皆様に多数お越しいただきましたこと、心よりお礼申し上げます。



3年生発表エンディング

今年度の文化祭スローガンは、「UPDATE OUR SCHOOL～進取果敢～」。生徒会長の の挨拶にもあったとおり、新たなことへの果敢な挑戦をめざして、全校生徒が一人一人の役割をしっかりと果たしながらの素晴らしい文化祭になりました。

各学年の発表は、これまでの体験的な学習から学んだことやテーマを活かすと共に、所々笑いを盛り込んだ楽しい発表でした。劇と共に合奏もありましたので、準備や練習が思うように進んでいるのかりハーサルでは内心ヤキモキしていましたが、当日は立派に完成させやり遂げてくれた生徒たちには感心させ



2年生発表エンディング

られました。

生徒会企画は、事務局が練りに練った企画で縦割りグループでのクイズ?でした。進行も臨機応変に楽しく盛り上げてくれましたし、参加した全校生徒が一生懸命に考えて回答をしていました。

エンディングでは全校合唱。グループ BACK NUMBER の「水平線」という曲を生徒会が中心となって選曲し練習してきた合唱

1年生発表エンディング



です。実は、今年度は生徒数の少なさや男女人数の偏りがあり、全校合唱は止めようと考えていました。しかし、生徒たちの強い希望と熱意により行うこととなりました。女子の人数が8名で男子の半分以上しかいないためハーモニーが心配されましたが、とても心のこもった素敵な歌声が響き渡り素晴らしい合唱になりました。

展示発表では、これまでの学習で制作した作品や体験学習のレポート、夏休みの課題作品( )の科学作品は郡科学作品展で銅賞を受賞)などを展示しました。日頃からの生徒たちの学習の成果や足跡として微笑ましいものや目を見張るもの、なるほどなあと感心するものなど多様性のある素晴らしい展示でした。



また、新制服の参考にとブレザー型の制服サンプルも展示しましたので、新制服へのイメージを膨らませていただけたのではないかと思います。



保護者の皆様、地域の皆様、当日はお忙しい中ご来校いただきありがとうございました。

## コウヤマキ自生林見学をしました

1年生は総合的な学習の時間の学習で、11月13日(水)に九郎原のコウヤマキ自生林見学をしました。たんぽぽの会の榎田祥恵さん、コウヤマキギャラリーの榎田幸男さん、中田昭さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。1年生は、ふるさとの自然に触れながら直接お話を聞くことで、多くのことを感じ学んだ様子です。この貴重な体験を今後の森林学習にも活かしながら、コウヤマキやサカキ、ヒサカキに直に触れた感触やミズメの香りを一人ひとりがしっかりと記憶にとどめておいてくれればと願っています。



## 今年も、花いっぱい運動

11月21日(木)には、例年行っている「花いっぱい運動」をしました。地域の方にも加わっていただき、七光保育所の年長さん、七日市小学校の児童の皆さん、吉賀高校生徒会役員の生徒さんと共に、プランターに花の苗を植栽し地域の皆さんに配布しました。活動は縦割りのグループになり、中学生が中心となって進めました。今年は、デイジー、ノースポール、ピオラ、パンジーの植栽をしたので、きっとこれから春まで可愛い花を咲かせ続けてくれると思います。水やりなどお世話になりますが、花いっぱいになるといいですね。



## 手話教室を開いていただきました

吉賀町が今年3月12日に手話言語条例を制定しました。手話は言語であるという認識に立ち、手話言語への理解と普及をめざすもので、誰もが安心して暮らせる地域共生社会の実現をめざすための条例です。そこで、手話言語と共に聴覚・視覚障害についての学びを深め、生徒一人一人が吉賀町のめざす町づくりに貢献できるようになることを願い、手話教室を開いていただき1・3年生が参加しました。

当日は、益田市の障害福祉センターあゆみの里から、藤井さん、中島さん、岡田さんらにお越しいただき、体験と交流を交えたとても貴重な体験をすることができました。

### 体験した生徒の感想より

私は今まで手話に触れたことがありませんでした。実際にやってみると難しいと思いました。でも、少しずつ覚えていくと誰でもコミュニケーションが取れるようになってとてもいいなと思いました。一つ一つの手話にちゃんとした意味があって、強弱や表情も手話の一つなのだと感じました。私は覚えるのは大変だけれど、耳が聞こえる聞こえないに関係なくたくさんの人ともっと話せたらいいなと思ったので、少しずつでも勉強してみたいです。みんなが同じように楽しく過ごせるために、自分にもできることがあるなら頑張ってみると、それは自分のためにも繋がると思います。今日の授業を通して、手話だけではなく、いろいろなことに挑戦したいなと思いました。

## 受賞しました

おめでとう!

◇全国中学生人権作文コンテスト島根県大会  
(2年生) : 山陰中央新報社賞

12月2日付山陰中央新報に記事が掲載されます

◇鹿足郡科学作品コンクール  
(2年生) : 銅賞

◇社会を明るくする運動作文コンクール  
(2年生) : 島根県BBS連盟会長賞

11月28日に、益田地区保護司会の方が来校され、校長室で表彰していただきました

## 人間の脳のくせ

アメリカ大リーグ、ロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手を、おそらく多くの方がご存じだと思います。今年度も大活躍をして昨年度に続き2年連続でMVP (Most Valuable Player 最優秀選手) に選ばれました。今年度はドジャースに球団移籍しましたが、ホームラン王や打点王に輝き、50-50 (ホームラン、盗塁共に50以上) を史上初めて達成したことで話題になりました。昨年のWBC (World Baseball Classic) では、大リーグスター選手をそろえたアメリカとの決勝の前に、「憧れるのはやめましょう。憧れてしまっただけでは超えられないので。今日はトップになるために来たので。」と日本チームを鼓舞したことや、結婚や愛犬「デコピン」も話題になりました。大谷選手のことは多くの方が知った上で憧れや好感をもって、彼を悪く言う人に出会ったことがありません。



では、大谷選手には欠点がないのでしょうか？直接お目にかかったことはありませんので詳しくは知りませんが、彼も人間である以上少なからず欠点を持ち合わせていると思いま

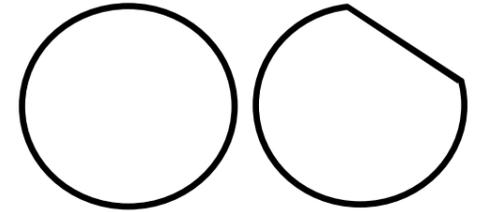
す。しかし、報道においては彼の欠点について話題になったことは記憶にありません。元通訳の不正賭博事件でさえも大谷選手を擁護する報道ばかりでした。それは、大谷選手のあまりにも素晴らしい功績や言動が際立っており、彼の欠点などは気にならないからだと思います。つまり長所の素晴らしさが短所を遙かに凌駕しているということです。

人は誰しも長所と短所を兼ね備えています。短所を少しでも直したり減らしたりすることはとても大事なことなのですが、同時に長所をより大きく素晴らしいものに高めていくことが重要なのです。短所ばかりを探して指摘するのではなく、短所が気にならないくらいの長所を見つけることを考えてもよいのではないかと思います。

そこで・・・

### 右の図をさっと見た時、どこに視線が行きますか？

という質問をすると、ほとんどの人が「右の円の欠けているところ(右上の部分)」と答えるそうです。左のきれいな円や、右の円の弧(こ:円周の一部)の部分などではないそうです。私もそうでしたが、皆さんはいかがでしたか？



これは、人間の脳のもつ「危険や異常を察知して、それらを回避し安全を求める」「不都合なことから理由をつけて合理性を求める」という本能的な働きによるもので、「人間の脳の癖」ととらえると良いと思います。右の円の方も完全な円であれば異常とは見なさないけれども、完全な円ではないため一部が欠けているように見え、これは不完全であると認識するのです。心理学ではこれを『認知的不協和』といいます。

「人間の脳の癖」と書きましたが、これは安全な生活を営むために本能的に必要なことで、生きる上でとても大切な脳の働きなのですが、残念ながら人間関係や子育てなどにおいては、しばしば邪魔になることがあります。特に、他者や自己の行為を見つめる時に、「できていること」よりも先に「完全ではないこと」「できていないこと」「欠点や短所」といった、いわゆる悪い面ばかりに視点や注意が向かってしまう働きをしてしまいます。

例えば、100点満点のテストで50点だった時に、「50点しか取れなかった(100点に50点も足りない)」と見てしまうのが「人間の脳の癖」の一つで、「50点を取れている」という部分に対して、肯定的な見方や気づきをもちにくいのが「人間の脳の癖」なのです。

そう考えると私たちは普段、他者や物事を見る時に、悪意はない(全くない場合が大半です)にもかかわらず、この「人間の脳の癖」によって、他者や物事を「完全ではないこと」「できていないこと」「欠点や短所」ばかりに注目して、対人関係悪化や他者のモチベーション(動機付けや意欲)を下げてしまうことを少なからず引き起こしていることに気がつきます。「できるはずなのに何故できないの?! もう中学生なのに!」といった感じです。逆に「できていること」に注目したり強調したりすると、他者を励ましたり、残りの未完成の部分はどうやって完成させようかという未来時間を考える動機付けややる気の向上につながりやすいものです。

無論、この考え方が万能というわけではありません。「ここまでできているんだね」という言葉がけで、相手が「もうここまででいいんだ」と満足し、その後の努力や成長しようという気持ちを止めてしまっただけでは何の意味もありません。つまり、マニュアル的に又は機械的にこの考え方をを使うのは間違っていると思いますが、対人関係づくりや子育てなどには大いに活用できると思います。要は「脳には癖があるのだ」と意識していることができるかどうかです。意識して、「今できていること」に目を向けることができるかどうか大切なのだと思うのです。